日本行動計量学会会報
第42号
1987年11月18日
日本行動計量学会
運営委員会広報係
（〒106）東京都港区
南麻布4－6－7
統計数理研究所内

巻頭言

医学と行動計量学

井上通敏

私は行動計量学を〝働きかけの科学だ〟と考えている。その際、働きかける対象や働きかける目的によって、様々な方法・手段があり、それらは工学、経済学、心理学、社会学、医学、生理学などそれぞれの専門分野で長年研究が続けられてきたのであるが、異った分野の方法や手段を集めて比較してみると、互いに共通性のあるものとともに、独自性の強い方法のあることを知ることができる。これが行動計量学会に出席することの楽しみの一つである。

さて、医学の場合、働きかける対象は生体である。これは〝中途半端にわかっている複雑な対象〟である。心理学の対象は脳であるが、これは〝ほとんどわかっていない複雑な対象〟であって生体とはだいぶ違う。いつか行動計量学会で印東太郎氏の講演を聞いたが、脳の情報処理のメカニズムをブラックボックスと考えて、入力と出力の観察からブラックボックスをモデル化するという話であった。なかなか説得力があって面白く聴いたが、本物がほとんどわかっていないから、かえって医学より大胆にモデル作りができて羨しいと感じた。わかっていない脳が無数に集って一つの対象となっているのが、経済、教育、政治などであるから、こういう領域では統計学が最も有力な方法になることは当然かも知れない。

これらと対照的なのは工学である。人間が作ったものが相手であるから、部品もその機能も既知である。こういう対象について観測や制御を行う場合には、心理学、経済学、教育学とは違って統計よりも決定論的な方法が主になる。カルマンによって提唱されたシステム理論などは最も工学的な美しいモデルだと思う。

さて、医学の場合は、中途半端にわかっている対象が相手で中間的である。診断や治療をいかに計量化するかをいかなる方法を借りてやるかなかなか難しい。ベイズの定理やマルコフ過程といった確率論や、判別関数や数量化理論といった多変量解析法の応用は有力な方法であるが、実際には、なかなか受入れられない。現場の医師は当面する患者について白か黒かはっきりしたいと考えるし、患者の側も、確率で答えてくれる医者より断定的に答えてくれる医者の方に集まる。一方、工学のシステム理論に習って、臓器機能のモデルを作り、機能診断や治療の最適化を行おうとすると、生理学者からモデルのパラメータや変数が実物とどのように対応するかを問われ、もし、少しでも説明不十分だと満足してもらえない。人工膵臓はインスリンの分泌が血糖値に対して〝比例＋微分動作〟で行われるというモデルによって成功したのであるが、生理学者の興味は何故、比例＋微分という動作が生じるのか、それを分子生物学的に説明することの方に向けられ、モデル自体を評価することはあまりない。

結論として、統計学もシステム理論も医学にとって有難い方法であり、たとえ生理学者に嫌われようとも使って行きたいと思うが、願わくば、借物の方法ではなく、〝中途半端にわかっている対象〟を相手とする医学独自の第3の方法を考え出すことが大切だと思う。

いのうえ・みちとし
日本行動計量学会理事
大阪大学医学部教授

第十五回大会報告

実行委員長　浅野長一郎

第十五回日本行動計量学会大会は、八月二十日から二十二日の三日間、福岡市東区に新設された公立学校共済のリーセント・ホテルで開催された。

九州の盛夏特有の早朝からの明るさ、碧空、突然の積乱雲とひと時の驟雨、しかしいつも玄海から志賀島の松林を通した涼風は人々を和やかにする。さらに、快適に空調された会場内ではシャンデリア等で豪華に飾られ、クリスタル調の四つの会議室の平行利用は、学会が万事に祝福された環境で開催された印象を与えた。このことは、開催事務局にとっても不能率に堅く管理された手続きにより大学の設備を借用するよりサービス面でもよく、随分と気分良く運営することが出来た。

今回の大会では、人間・心理・医学など生物面およびソフトウエア面での進歩の先端的研究の現状と課題動向に重点をおいて企画し、九州とその近辺の指導的先生方にオーガナイザーをお願いして特別講演や特別セッションを組織して頂いた。

すなわち、特別講演としては①鍋島史子氏（テネシー大学心理学）に潜在特性分析に関する概観、②佐藤隆博氏（日本電気C&C情報研究所）に教育情報工学の勧め、③松田博嗣氏（九州大学生物学）に協力行動の進化のモデルの講演をお願いした。

また、特別セッションとその組織者としては、日頃先端的に活動されている方々の内、①臨床評価におけるフロンチア的手法の適用と展望（愛媛大学・小川暢也氏）、②診断支援の為の医療情報処理（佐賀医大・庄野秀明氏）、③統計パッケージ再考（住商コンピュータ・新村秀一氏）、④生物の行動モデルと計量（九州大学・巖佐庸氏）、⑤成長発達老化の統計的解析（岡山大学・脇本和昌氏）、⑥計量モデルと情報処理（筑波大学・大西治男氏）、⑦企業行動モデル（西南大学・小森俊介氏）、⑧教育方法と情報工学（日本電気・佐藤隆博氏）の八テーマをお願いして、計五十八題の口演発表が組織された。

また、期日等の種々の都合から統計パッケージに関する十件の紙上発表をも計画して学会内容の充実を意図した。さらに、事務局で可能な限りの努力により、会場ロビーにおける四件のパソコン・ソフトウェアの実演をお願いした。その他、七つの一般セッションでは四十八件の口演発表があり、総計百十九件の論文発表があった。

これらのために大会予稿集も三百八十ページの厚い論文集が準備された。その参加者数は、正会員百三十九名・準会員十一名・非会員六十五名をかぞえ盛況であった。また、初日夕刻のホテル内での懇親会には百名弱が参加し、また統計ソフトに関する論議は尽きず二次会にも数十名が参加した由であった。このような経緯で、経費の収支は、上手に丁度トントンであった。

このように、本大会が予想以上に盛況であったのは、ひとえに私達を支援された多くの先生方の御厚情溢れる御協力によるもので、事務局一同を代表して、この機会に深甚の感謝を申し上げたい。とくに、何回も連絡に御来学され熱心な御協力を賜った、上記の小川先生・新村氏・庄野氏、またこの企画に種々の知恵や手配を頂いた字部興産（株）荒神元巳氏に衷心よりお礼申し上げる次第である。

この大会事務局として企画と実行に総指揮をとったのは、九大理・情報研の渡辺美智子嬢であり、この補佐と実行には仁木直人氏・山口和範氏が努力された。ポスター図案は院生の村瀬祐一君の作である。ここに感謝の意とともに、付記して記念したい。

おわりに、今後への希望を付して擱筆したい。本学会の発表内容は、実質分野とそれに基くデータ・情報処理の二面の理解が必要である。したがって、発表に対しもう少し踏込んだ建設的で丁寧な論議が出来る工夫が必要になろう。論議が甘くなり、後程に個人的に、では面倒だし忘れてしまう。ワークショップ・セッションなどで発表者も討論者も真に有益で、学会がお祭りにならない配慮を必要とする気運にあると思われる。

昭和61年度会計決算

昭和61年4月1日～62年3月31日

収入	決算	予算	増減
前年度繰越金	1,903,189円	1,903,189円	0円
学術定期刊行物補助金	800,000	800,000	0
61年度学会費	4,218,500	5,395,000	△ 1,176,500
（正会員 800名）	（4,001,500）	（4,250,000）	（△ 248,500）
（準会員 62名）	（217,000）	（245,000）	（△ 28,000）
（賛助会員）	（0）	（900,000）	（△ 900,000）
他年度学会費	617,691	500,000	117,691
学会誌売上金	266,490	300,000	△ 33,510
大会講習会決算残高	23,128		23,128
（17回講習会）	（24,267）		（24,267）
（14回大会）	（△ 1,139）		（△ 1,139）
抄録集等収入	2,950		2,950
預金利子	56,685	120,000	△ 63,315
学会賞基金からの副賞	200,000	200,000	0
計	8,088,633	9,218,189	△ 1,129,556

支出	決算	予算	増減
学会誌製作費	5,092,670円	5,478,600円	△ 385,930円
（和文誌 13巻2号）	（1,266,600）	（950,000）	（316,600）
（〃 14巻1号）	（1,103,000）	（950,000）	（153,000）
（〃 14巻2号）	（0）	（950,000）	（△ 950,000）
（欧文誌 No. 20）	（1,264,100）	（1,314,300）	（△ 50,200）
（〃 No. 21）	（1,458,970）	（1,314,300）	（144,670）
月例会費用	155,000	120,000	35,000
各種委員会活動	367,980	300,000	67,980
学会事務委託費	1,324,979	1,566,000	△ 241,021
（管理費）	（120,000）	（120,000）	（0）
（発送手数料）	（1,120,556）	（1,200,000）	（△ 79,444）
（新入会員・異動処理）	（82,043）	（206,000）	（△ 123,957）
（その他）	（2,380）	（40,000）	（△ 37,620）
人件費	25,600	50,000	△ 24,400
印刷費	166,719	250,000	△ 83,281
通信費	1,176,809	1,000,000	176,809
消耗品費	1,369	28,800	△ 27,431
交通費	11,820	10,000	1,820
会合費	86,000	100,000	△ 14,000
雑費	85,813	40,000	45,813
予備費	0	74,789	△ 74,789
学会賞副賞	200,000	200,000	0
次年度繰越金	△ 606,126		△ 606,126
計	8,088,633	9,218,189	△ 1,129,556

昭和62年度　予　　算

収　　入	62年度予算	61年度実績	備　　考
前年度繰越金	△ 606,126円	1903,189円	（注1）内定額
学術定期刊行物補助金（注1）	710,000	800,000	
62年度学会費	6,062,500	4,218,500	（注2）功績賞及び優秀賞
（正会員 5,000円×950名	4,750,000	4,001,500	
準会員 3,500円× 75名	262,500	217,000	
賛助会員 30,000円× 35口）	1,050,000	0）	
他年度学会費	1,750,000	617,691	
学会誌売上金	840,000	266,490	
預金利子	10,000	56,685	
学会賞基金からの副賞（注2）	150,000	200,000	
計	8,916,374		

支　　出	62年度予算	61年度実績	備　　考
学会誌製作費	5,478,600円	5,092,670円	
（和文誌 14巻2号	950,000	和文誌13巻2号 1,266,600	（注3）編集委員会，刊行物委員会，選考委員会，社会調査技法研究会
〃 15巻1号	950,000	〃 14巻1号 1,103,000	
〃 15巻2号	950,000	欧文誌No.20 1,264,100	（注4）(財)日本学会事務センターへの委託費
欧文誌 No.22	1,314,300	〃 No.21	
〃 No.23）	1,314,300	1,458,970	（注5）1,200名年8回発送
月例会費用	120,000	155,000	
各種委員会活動（注3）	300,000	367,980	（注6）新入会員 70名 異動 250名
学会事務委託費（注4）	1,380,000	1,324,979	
（管理費	120,000	120,000	（注7）事務連絡費，コピー代，リスト打出し料等
発送手数料	1,150,000（注5）	1,120,556	
新入会員・異動処理	100,000（注6）	82,043	（注8）学会事務センターにおける郵税を含む
その他）	10,000（注7）	2,380	
人件費	15,000	25,600	
印刷費	180,000	166,719	
通信費（注8）	1,000,000	1,176,809	
消耗品費	1,000	1,369	
会合費	80,000	86,000	
雑費	10,000	85,813	
予備費	1,774	0	
選挙費用	200,000	0	
学会賞副賞	150,000	200,000	
計	8,916,374		

会議記録

○理事会
時　昭和六十二年六月十一日
所　統計数理研究所
出席者　理事八名

1. 学術会議の14期会員推薦について意見を交換した。
2. 新年度事業計画について意見を交換した。
3. 各種委員会報告が行われた。

○理事会
時　昭和六十二年八月三日
所　統計数理研究所
出席者　理事十一名

1. 会則七条の変更（会費値上げ）を総会に諮ることを決定した。
2. 学会賞授賞者を決定した。
3. 昭和六十二年三月三十一日現在の予算状況にのっとった最終決算報告が提出され承認された。
4. 第十五回大会での総会次第について意見を交換した。
5. 各種委員会報告が行われた。
6. 選挙管理委員会の構成について意見を交換した。

○理事会
時　昭和六十二年八月二十日
所　福岡リーセントホテル
出席者　理事十四名

1. 第十五回大会の総会次第を決定した。
2. 昭和六十二年度予算を承認した。
3. 各種委員会報告が行われた。
4. 次期学会賞委員会の委員長を決定した。
5. 選挙管理委員会の構成を決定した。委員長・星守氏（千葉大）、委員・中村隆氏（統数研）、米田正人氏（国語研）

○第十五回大会総会
時　昭和六十二年八月二十日
所　福岡リーセントホテル
〔開会の辞〕学会事務局（岡太理事）
〔挨拶〕開催校（浅野理学部教授）
〔挨拶〕学会（林理事長）
〔議長選出〕三隅二不二氏（大阪大学人間科学部教授）を選出
〔報告および議事〕
1. 昭和六十一年度事業報告、同決算報告（林理事長および担当理事より。原案通り承認。）
2. 会計監査報告（宮原、開原両監事の代理の渡辺美智子氏より。原案通り承認。）
3. 会則七条変更（学会事務局より説明があり原案通り承認。）
4. 昭和六十二年度事業計画、同予算案（林理事長および担当理事より提案。原案通り承認。）
〔学会賞授与〕
功績賞・柳井晴夫氏
優秀賞・宮埜壽夫氏
〔実行委員長挨拶〕浅野長一郎実行委員長
〔閉会の辞〕学会事務局（岡太理事）

会則変更

第十五回大会総会で会則七条は左のように変更されました。

――――•――――

7. 会費として正会員は年額六、〇〇〇円、準会員は四、〇〇〇円を、その年度分として毎年四月末日に納めなければならない。改正七条の規定は昭和六十三年四月一日より効力を生ずる。

――――•――――

会費値上げのお知らせ

当学会の会費は現在、正会員が五千円、準会員が三千五百円です。右の通り、会則の変更が承認されましたので、昭和六十三年度から

正会員　六、〇〇〇円
準会員　四、〇〇〇円

となります。学会発展のため、会員の皆様の御協力をお願いします。

○運営委員会（第17回）
時　昭和六十二年四月二十三日
所　統計数理研究所
出席者　運営委員　七名

1. 講習会・夏季セミナーについて
希望が寄せられているが、日程的にはきつい。たとえば「医学生のための行動計量」などで関西・中国地区で企画を検討する。
2. 月例シンポジウムについて
「都市問題」についての素案が東工大・熊田氏から提示された。「自然言語処理」「パソコン統計パッケージ」「新人類」などのテーマを検討した。

○運営委員会（第18回）
時　昭和六十二年六月十日
所　統計数理研究所
出席者　運営委員七名　庶務担当理事一名

1. 講習会について
関西・中国地区での開催を該当地区の運営委員が中心に考える。
2. 月例シンポジウムについて
「言語情報処理システム」「都市問題」「新人類」「パソコン統計パッケージ」などの案を検討し、具体化の可能性を考えた。
この他に「色彩工学」「景観」「デザイン」などの案が出た。

3. 会報について
発行の遅延に関して報告があった。「会員異動欄」の設置や横組み化について検討した。
4. その他
学術会議選挙の件、会費納入状況の件について報告があった。

○運営委員会（第19回）
時　昭和六十二年八月二十日
所　福岡リーセントホテル
出席者　運営委員八名　庶務担当理事二名
1. 62年度活動計画について
現委員の任期は今年一杯であるが、活動は例年通り進める。
2. 講習会について
「マイコン統計学」をテーマに関西で開く計画が進んでいる。
3. 月例シンポジウムについて
「都市問題」「新人類」「人のパターン認識」「言語情報処理」のテーマでの計画が進んでいる旨の報告があった。また、第50回を迎えるのを記念して、次回の大会時に「50回記念シンポジウム」の企画を進めることとした。シンポジウム講師の旅費について議論し、賛助会員の増加、参加者からプリント代の徴収なども検討した。

○第46回月例シンポジウム記録
テーマ「街づくりのシェフ（市長）が語る私のヌーベルクュイジン（新しい街づくり）」
日時　昭和六十二年十月二日
場所　東京工業大学　講議室
オーガナイザー・司会
熊田禎宣（東工大・社工）
発題　臼井　孝（秋川市長）
土屋正忠（武蔵野市長）
参加者　九十三名
共催　東京工業大学（公開講座）
日本計画行政学会

〈予告〉
第47回月例シンポジウム
第8回行動計量関西懇話会
時　昭和六十二年十一月二十八日
土曜日　十三時半～十七時
所　京都大学・楽友会館パーラー（京都市左京区吉田近衛町）
テーマ「ヒトは形をどのように見ているか―人のパターン認識」
オーガナイザー　井上通敏（阪大）
木下冨雄（京大）江島義道（同）
発表者　浜田治良（徳島大）
三宅誠（ATR視聴覚研）
中谷和夫（東大）
共催　バイオ・インフォーマティクス研究会
後援　ME学会関西支部

昭和61年度　学会賞基金決算報告

61. 4. 1. ～ 62. 3. 31.

収　入	決　算	予　算	増　減
林知己夫理事長より寄付金	1,400,000円	1,400,000円	0円
預金利子	10,230	10,000	230
計	1,410,230	1,410,000	230

支　出	決　算	予　算	増　減
学会賞副賞	200,000円	200,000円	0円
次年度への繰越金	1,210,230	1,201,000	230
計	1,410,230	1,401,000	230

シンポジウムのお知らせ

日本学術会議行動科学研究連絡委員会の主催で左記が開かれます。
テーマ「組織と人間行動」
時　昭和六十二年十一月二十四日　火曜日　十三時～十七時
所　日本学術会議大会議室（2F）
司会　木下冨雄氏
発題　内山喜久雄氏、三隅二不二氏、蜂屋良彦氏、野中郁次郎氏
岩田龍子氏（討論あり）

会員数（62・11・10現在）
名誉会員　一名
正会員　一、〇三一名
準会員　七八名
賛助会員　三二社

★会報発行に遅滞をきたしましたこと、心からおわび申上げます。